

2019年9月25日発行

好きな服は？ 秋の七草



“ せり なずな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ これぞ七草 ”

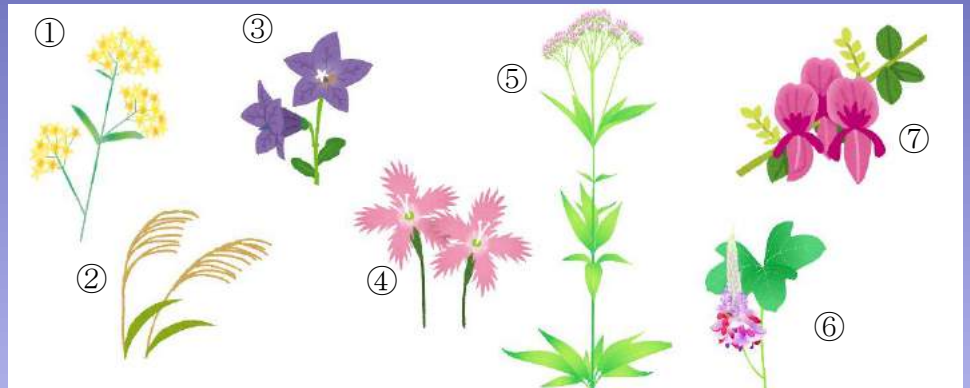
こちらは【春の七草】をあらわした短歌です。暗記のしやすさからもよく取り上げられます。皆さんも一度は耳にしたことがあると思います。1月7日の朝に【春の七草】と一緒に炊いた七草粥を食べて、その一年の無病息災を願う習わしも古くから続く年中行事ですね。

では、【秋の七草】についてはどうでしょう。関連する有名な行事もなく、話題にすら上がらない。皆さんは、「7つ全部上げてみて」と言われたら、答えられるでしょうか。正解は以下の七つです。

“萩 すすき 葛 なでしこ 桔梗 藤袴 女郎花”

名前だけ聞いても、どんな植物が浮かばないものが多いように思います。【秋の七草】は春とは違い、食べる植物ではなく目で見て楽しむ植物です。なので、色合いが似通った【春の七草】とは違い、【秋の七草】は花が多く色鮮やかなのが特徴です。『好きな服は？』と語呂合わせで覚えると分かりやすいのかなんとか。

- お → 女郎花 ①
- す → すすき (尾花) ②
- き → 桔梗 ③
- な → なでしこ ④
- ふ → 藤袴 ⑤
- く → 葛 ⑥
- は → 萩 ⑦



【秋の七草】は、万葉集に詠われている次の2首が始まりとされています。

“秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七種の花”

“萩の花尾花葛花なでしこの花をみなへしまた藤袴朝顔の花” 山上憶良

ここで詠われている『朝顔の花』は桔梗のことを表しているという説が有力です。

秋の野で咲いている花を数えて愛でている情景を詠っていますが、今では7つのうち、女郎花、桔梗、なでしこ、藤袴の4つは絶滅危惧種に指定されています。目で見て楽しむ植物なのに中々お目にかかれないうせいで、ますます【秋の七草】が忘れられていく。意識していなかったことですが、いろいろ知ってしまうとやはり寂しく感じてしまいます。

(秋でも花見がしたい司書4年生 M)

